

平成28年度 学校評価報告書

〔達成値〕 A:十分満足である B:ほぼ満足できる C:改善が必要である

益田翔陽高等学校

重点目標	分掌	重点目標	具体的取組事項	評価指標（到達したい状況・状態）	達成値	自己評価（反省及び次年度への課題等）	学校関係者評価
人を敬愛する生徒の育成	保健相談部	教育相談活動の充実	特別支援教育体制充実のための教職員への啓発、校内・保護者・外部機関との連携	情報提供が生徒理解に役立ったと答えた教職員の割合	A 95.8%	中学校からの情報収集について、校内で用紙を統一したため年度当初スムーズであった。ただ集約した情報の活かし方については今後の検討課題である。来年度も教職員研修を定期的開催したい。	A ○保健相談、人権・同和教育ともに充実している。 ○スクールカウンセラーの来校日等メール配信により個別に連絡がある。タイムリーなきっかけ作りになっている。
	図書研修部	人権・同和教育HRの推進	生徒の実態に応じた研究授業を検討し、日常生活においても普及を図る。	研修の機会が十分にあると答えた教職員の割合	A 97.9%	研修機会の周知はほぼ達成できたので、次年度以降も今年度のセレクト研修方式のようにシステム化を図り、研修の成果等を普及するとともに、日常的に活かせるような教職員研修を考えていきたい。	
自律する生徒の育成	生徒指導部	規律ある生活態度を確立させる	定期的に頭髪・服装検査を実施し、事後指導を徹底する。全教員での指導体制を充実させ、継続して指導を行う。	頭髪・服装規定を守っていると答えた生徒・保護者と、継続して指導ができた答えた教員の割合	C 81.1%	生徒や保護者の評価は昨年度から更に高くなっており、生徒同士での意識の高まりをより一層促していきたい。また、毎授業始めに姿勢や服装を正す指導を全教員で取り組んでいくようにしていきたい。	B ○服装・頭髪について、教員内で判断の徹底がなされるよう意思統一をお願いしたい。 ○あいさつ運動等 P T Aも協力し、声掛け、マナー向上に努めている。 ○学校外へ生徒が出る機会には、服装・態度・マナー等の事前指導をおこなって欲しい。
	寮務部	寮生としての自覚と責任感の向上	より良い生活環境や集団生活の維持のために、寮生活のルールの遵守や役割・当番等の仕事がきちんとできるようにする。	一人の寮生として自覚と責任を持って、集団ルールを遵守しながら寮生活ができた答えた寮生の割合	B 84.6%	まだまだ問題は残っているが、男子玄関でスリッパを脱ぎっぱなしで登校すること等集団生活の規範意識の向上が見られる。さらにコミュニケーションの充実を図り寮生活をより良いものにしていきたい。	
	1 学年部	基本的な生活習慣を育成する	日常の服装・頭髪の基準を守るよう指導する。	日常の服装・頭髪の基準が守られていたと答えた教職員の割合	C 52.1%	一部の生徒に対して指導が行き届かない面があったと感じる。学年部をあげて対応をしていきたい。	
	2 学年部	頭髪・服装の基準を守らせる	始業時・終業時に、正しい身だしなみをしていることを確認させる。	始業時・終業時に、正しい身だしなみで号令をかけていると答えた生徒・教職員の割合。	C 88.5%生 57.4%教	生徒88.5%、教員57.4%と生徒と教員との判断にずれが見られた。教卓上「心得」を設置したのでできるまでやり直させているはず。やり直させたからできていないと判断するのか、やり直したからできた判断するのかわかっていたのかではないか。	
	3 学年部	基本的な生活習慣を継続して育成し、進路目標を達成させる	日常の服装・頭髪の基準を守り、挨拶や言葉遣いがしっかりできるよう指導する。	日常の服装・頭髪の基準が守られており、挨拶・返事・言葉遣いがしっかりとできていたと答えた教職員・保護者の割合。	C 70.9%	学年集会を開き、全体指導や各クラスでの指導をおこなってきたが、残念な結果となってしまった。	
学力向上に努力する生徒の育成	教務部	授業力の向上と基礎学力の育成	I C T を活用し、授業改善を図る。	授業でICT機器を活用することで授業が分かりやすくなった、と答えた生徒の割合。	B 80.9%	多くの先生方に実物投影機やタブレットを活用いただいているが、特にタブレット端末の映像が映らないというトラブルが多い。使える環境の整備が急務である。	B ○資格・検定等の情報が届かないことがある。情報提供の徹底をお願いしたい。 ○ I C T 事業が終了し、継続させるための費用の捻出等をお願いしたい。
			学習の遅れがちな生徒の指導を推進する。	学校は個別指導や試験前の居残り学習や補習を充分に行った、と答えた生徒の割合。	A 92.5%	各教科の先生方には、個別指導等を時間を割いて実施していただいている。先生方には継続して授業改善を、生徒には授業を受ける態度や課題への取組等、通常の授業態度の改善を促したい。	
	電子機械科	進路意識の向上	資格取得に積極的に挑戦させ、多くの成果・成功を体験させ、学習意欲を向上させる。	資格取得・授業態度に関するアンケート結果	B	合格率よりも資格取得に対する意識が低く、受検率が低い。経済的な事情があるかも知れないが、進路意識を高めることで資格取得に挑戦する気持ちを持たせたい。	
	電気科	進路意識の向上	将来を見据え、生徒が主体的に資格や学習に取り組むことができるように補習を実施する	資格、検定に合格及び技能修得した生徒の割合	B	計画的な補習の実施と将来を見据えた資格受験をさらに促す。	
生物環境工学科	基礎学力の向上	個々の進路実現のため、資格取得をはじめとする学習指導を充実する。	資格取得のための指導や個別指導、試験前の居残り学習や補習を行ったと答えた生徒の割合。	A	今後も継続して、個別指導や居残り学習・補習等を行ってきたい。		
進路の実現に努力する生徒の育成	進路指導部	迅速な情報提供	会社訪問を積極的に行い、情報収集に努める	進路指導部は会社訪問を積極的に行い、企業との連携に努めたと答えた教員の割合	A 90.2%	今年度は1学期と3学期で延べ40社の会社訪問を行った。来年度も進路指導部と科・学年部と連携して会社・学校訪問を積極的に行っていきたい。	A ○保護者の評価が低い。学校が情報提供しても保護者の関心が低いのか。 ○入学後すぐの進路アンケート等、進路の意識付けは積極的である。
		進路意識の高揚	進路模試や進路ガイダンスを計画的に行う	模試、ガイダンスなどを通して進路意識の高揚に努めたと答えた教員・生徒の割合	B 83.9%生 90.5%教	教員90.5%、生徒83.9%という結果であった。生徒に対しての評価が低い。来年度も進路模試、作文テストや進路ガイダンスを実施し、進路意識の高揚を図りたい。また、全クラスに求人票を配布し進路意識を高めていきたい。	
心身の健康保持に努力する生徒の育成	総務部	安全教育の推進と防災意識の高揚	火災や地震など実際に即した避難訓練を実施する。	実際に即した訓練だったと答えた生徒・教職員の割合	A 90.1%	避難訓練の実施により防災意識が向上している。火気の取り扱いもトラブルが起きていない。農場への放送設備がないことが今後の課題だと考える。	A ○企業側からすると、部活動を継続している生徒は魅力がある。勉強以外のことを部活動で体験し、部内でのコミュニケーションを図って欲しい。ぜひ加入率のアップをお願いしたい。 ○経済的な問題もあるのではないかと。 ○部活動をしていない生徒に対して、教育相談とリンクさせることはできないだろうか。
	生徒指導部	生徒の部活動への加入を推進する	新入生対象に部活動のオリエンテーションを実施する。定期的に加入状況を把握し、部活動への加入を促す。	全学年の部活動に加入している生徒の割合	C 84.9%	加入率の低下に比例して学校生活での落ち着くもなくなってきた。各担任・学年部だけでなく部顧問会など様々な委員会や分掌と連携して部活動に加入させたい。	
	保健相談部	健康教育の推進	計画的な実践活動および講習会の実施、健康情報の発信	計画的な健康教育活動・講演会の実施、適宜健康情報が発信され、役に立ったと答えた生徒・職員の割合	A 92.2%生 89.4%教	2年生で新たに「デートDV予防教育」を取り入れ、より計画的に講演会を実施できるようになった。講演会の内容については、生徒の実態に合わせて他の分野も検討予定。感染症対策として、保護者へのメール配信も活用。	
家庭地域中学校との連携	総務部	広報活動の充実	校内の状況や学校行事への案内等を中心に、メール配信や学校通信の発行やホームページの更新を積極的に推進する。	メール配信や学校通信の発行やホームページの更新が充分に行われたと答えた保護者・教職員の割合	A 93.7%	定期的な学校通信の発行やメール発信を行っており情報の提供が行われたと考える。未加入者へのさらなる啓発が必要と考える。ホームページの更新は、さらに各分掌、科、部活動等の協力を求める。	A ○評議員として、学校通信を送付していただいているが、内容等非常にわかりやすく拝見している。
	教務部	生徒募集の推進	中高連絡会、進路説明会、1日体験入学の充実	入学して実際にやってみて、関心が強くなったと答えた中学生の割合。	B 85.5%	年2回の体験入学は負担も大きく、また、参加する中学生が必ずしも本校を志望する中学生ばかりではないが、中学生にとっては本校を知る大事な機会である。来年度も年2回の実施としたい。	
	農場部	魅力ある農業教育の推進	地域連携・貢献事業、校内連携活動の推進	実施回数25回	A 30回	今後も地域連携・貢献事業、校内連携活動を推進して、魅力ある農業教育を行ってきたい。	
	総合学科	学力向上に努力する生徒の育成	総合学科生徒の学習活動が校内の他学科との連携や地域との連携により学習への興味関心を高めるとともに、地域を理解し貢献できる人材を育成する。	今年度新たに企画した他学科や地域と連携した学習の回数	A 15回超	今年度はとりわけ3年生の課題研究で校内の他学科との連携や地域連携の取り組みが多く、新たな取り組みが15回を超えた。今後も継続していきたい。	